■論文

中国スポーツ体制改革の葛藤

——田亮の「ナショナルチーム除名事件」から——

王 篠卉¹⁾

抄 録

本稿は、中国ナショナルチームに所属した男子高飛び込み選手である田亮の「除名事件」を手がかりに、「改革開放」の過渡期にある中国スポーツ選手が従来の「国家的英雄」から「大衆のスター」として社会に受け入れられることを通し、市場経済が引き続き成長する社会背景の下で、「国家」の政治性が漸次的に衰退しつつある中国におけるスポーツ改革の現状が今後どのように変化していくのかについて分析するものである。

田亮は「挙国体制」下の中国で育てられたオリンピック金メダリストであり、中国スポーツにおける代表的な「国家的英雄」であった。国家は彼のようなオリンピック金メダリストらを理想的な「中国人」の像として形作り、ナショナルアイデンティティの具現化に役立たせた。

一方、「改革開放」政策の進展にしたがって、国家の権力により統制されたスポーツの「挙国体制」に対峙して「スポーツ市場」が成立し、拡大しつつある。経済面でのメリットを図る国家は、田をそこに送り出したが、メディアによって田のイメージが作り直され、「国家的英雄」像に全くそぐわないものとなった。「国家」はこれを理由として田をナショナルチームから除名したが、それにもかかわらず、彼は「大衆的スター」としてスポーツ市場のメカニズムの中で人々に認められるようになった。

田の「除名事件」は中国スポーツ改革の軋轢を反映する事件であり、そのうえ、彼が国家から見放された後でも「大衆的スター」として社会に受容されることは、市場経済の影響で進化しつつある社会に対して、「国家」が徐々に支配し得なくなる現状を語っている象徴的な例でもある。このような状況における中国のスポーツ改革は今後いかに改革の方向を調整するか、これについて、本稿は最後に明らかにした。

キーワード：「挙国体制」、中国スポーツ体制改革、イメージ変容、新聞報道、オリンピック金メダリスト田亮

Conflict in the Reform of China's Sport System:

The Removal of Tian Liang from the Chinese National Team

OH Shoki¹⁾

Abstract

Chinese Olympic diving champion Tian Liang, one of the most outstanding national athletes, was ejected from the national team because he was engaged into too many commercial activities without consent from the authorities.

Tian Liang was trained in the system of China National Sports Administration, which has been practicing for decades to boost national prestige with the possibility of winning medals.

On the other hand, as China becomes more open from the reform and the process of globalization, the sports market is opening and the sports economy is growing. The Chinese authorities send its Olympic champions on the market to measure the value and the cost in comparison with the international level. But at the same time the authorities also demand the champions to keep loyal to their country and attribute all their achievements to the party and the people.

Tian Liang has become a popular sport star who can play a significant role in the new commercial system of sports. The transformation of his image between the new and the traditional was unavoidable.

This research paper reviews the development of the sport system since the founding of new China and analyzes why Tian Liang was ejected from the national team. In addition, according to the press, some issues on the future of China sport system reform are explained from a sociological perspective in this research.

Keywords: The System of National Sports Administration, the reform of China sport system, image transformation, press reporting, Olympic gold medalist Tian Liang

1) Graduate School of Sociology, Kansai University

1 本稿の概要

田 亮はナショナルチームに所属する男子高飛び込みの選手であり、中国の「挙国体制」で育てられた「国家的英雄」でもあった。中国では、「改革開放」政策の結果、「挙国体制」と対峙しうる新たなスポーツ市場の空間が生まれ、サッカー、バスケットボールなどの人気種目ではプロ化が進み、所属選手がほぼ自由にスポーツビジネスの市場に進出するようになり、海外流出の例も見られるようになった。「国家的英雄」であった田もスポーツにおけるビジネス市場へ進出し、多数の商業活動に携わった。優れた競技成績、人間としての魅力、容姿とも優れた田はスターのようにメディアに取り上げられ、それまでの「国家的英雄」とどまらず「大衆的スター」としても賞賛を浴びるようになった。ところが、2005年1月26日、国家体育総局が田をナショナルチームから除名するという事件が起こった。

ナショナルチームに所属するトップクラスの選手が現役中に除名されるという事件は、スポーツ市場化改革が実施された後、初めて起こった大きな出来事である。しかし、この「除名事件」は決して偶然に起きたものではない。本稿では、この事件を過渡期にある中国スポーツ改革の現状を象徴する最も典型的な出来事であると考えて取り上げ、中国のスポーツ界における「国家的英雄」が、「改革開放」政策の開始後、市場拡大の影響により「大衆的スター」に転身する過程を分析するとともに、田の「除名事件」の新聞報道を比較・検討することから、これまでの中国のスポーツ改革の実

態を把握し、現在の中国社会において「除名事件」がもつ象徴的な意味を提示する。

2 田亮の「除名事件」

田（図1）は1979年中国の重慶に生まれ、1986年に「重慶市青少年第一業余体校」¹⁾の高飛び込みチームに選ばれ、高飛び込みの練習を始めた。その後、彼は1993年に14歳で中国高飛び込みのナショナルチームに選ば

図1 田亮²⁾

表1 田亮の主な成績³⁾

年数	大会名（開催地）	種目	成績
1997	中国全国運動会（上海市）	10M 高飛び込み	銀
1998	世界選手権（パース）	10M 高飛び込み	銀
		シンクロナイズド 10M 高飛び込み	金
1999	FINA ワールドカップ（ウェリントン）	10M 高飛び込み	金
		シンクロナイズド 10M 高飛び込み	金
2000	オリンピック大会（シドニー）	10M 高飛び込み	金
		シンクロナイズド 10M 高飛び込み	銀
	FINA ワールドカップ（シドニー）	10M 高飛び込み	金
		シンクロナイズド 10M 高飛び込み	金
2001	世界選手権（福岡）	10M 高飛び込み	金
		シンクロナイズド 10M 高飛び込み	金
2002	中国全国運動会（広東省）	10M 高飛び込み	金
		シンクロナイズド 10M 高飛び込み	金
2003	FINA ワールドカップ（セビリア）	10M 高飛び込み	金
		シンクロナイズド 10M 高飛び込み	金
2004	世界選手権（バルセロナ）	10M 高飛び込み	銅
		シンクロナイズド 10M 高飛び込み	銅
	オリンピック大会（アテネ）	10M 高飛び込み	銅
		シンクロナイズド 10M 高飛び込み	金
2005	FINA ワールドカップ（アテネ）	10M 高飛び込み	金
		シンクロナイズド 10M 高飛び込み	金
2005	中国全国運動会（江蘇省）	10M 高飛び込み	金

れ、国内外で開催されるほとんどの高飛び込みの競技大会で優秀な成績をおさめた [田, 2006:1-49]。また、彼は 2000 年シドニーで開催されたオリンピックで金・銀メダルを、2004 年アテネオリンピックで金・銅メダルを獲得し、中国における高飛び込み界のエースとなった (表 1)。さらに、田は競技成績の優秀さに加え、容姿、人間としての魅力ともに優れた特性を備えていたため、中国ではスポーツ界の「プリンス」と呼ばれ、国民の中で絶大な人気を誇っている [読売新聞, 2004.2.11]。

田はアテネオリンピックの終了後、自身の肉体疲労を理由に半年間の休養 (身体調整) を要請し、管理機構である「中国スポーツ水泳管理センター」は彼の要求を受け入れた。そのため、彼は 2004 年の 10 月

31 日から始まった高飛び込みチームの冬季合宿には参加しなかった。しかし、肉体疲労を理由に休養をとっていたにもかかわらず、田はその間に大きなイベントや商業活動に無断で 30 回以上携わり、そこで得られた収入のほとんどを自分のものにした。表 2 はその一部を示したものである。さらに、田は個人のマネージャーを置き、香港の大手プロダクションである EEG と契約を結び、芸能界にも進出する動きも見せ、その上、今後の自分の海外における宣伝の権利を EEG に委託するという噂も流れたことから、芸能人並に

騒ぎ立てられた⁴⁾。

このような田の活動を受け、国家体育总局は、田の行為がナショナルチームの規則に違反するという判定を下した。ナショナルチームの規則は、国家体育总局が 1996 年にとりまとめた『広告等の商業活動に従事する現役スポーツ選手の管理強化に関する通知』 (以下、『通知』と略称)⁶⁾、および 1998 年に追加された『広告等の商業活動に従事する現役スポーツ選手の管理強化に関する通知追伸』 (以下、『追伸』と略称)⁷⁾ の二つによって定められている。この二つの規則は、商業活動に従事する現役スポーツ選手の行動基準として現在も用いられている。『通知』には、「現役スポーツ選手は無形資産として国家に属する。そのため、現役スポー

表 2 アテネオリンピック終了後、田が参加した商業活動の一覧⁵⁾

日付	場所	商業活動の内容
9 月	香港	〈中国人の誇りーオリンピック金メダリスト大出演〉
	マカオ	〈オリンピックエリート濠江生出演〉
	新洲	祝賀イベント
	広州	ショッピングセンターが主催したイベント
	西安	祝賀大会
	上海	LV 開店パーティー
	上海	ヒューゴボス中国開業十周年記念イベント
	上海	F1 オフィシャルディナーショー・シューマッハ歓迎パーティー
	無錫	デパートのオープンイベント
10 月	上海	NBA 観戦
	マカオ	リスボアでの抽選イベント
	重慶	不動産会社が行ったイベント
	北京	〈上品中国ーピエールカルダン風采盛典〉受賞イベント 〈上品スポーツ選手賞〉が受賞
11 月	西安	車会社が行ったジープ授与式
	香港	西武百貨店のテーブルカット式
	上海	ダイヤモンド販売店の開店イベント
	昆明	〈李寧 スターバレーボールチームの全国巡回試合〉でのサイン会
	上海	ショッピングサイトのイベント
	上海	〈MTV ミュージック盛典〉
	上海	電子メーカーの開店イベント
12 月	香港	香港テレビ局 TVB のチャリティー番組
	広州	飛び込みオリンピック金メダリストの記念パーティー
1 月	香港	〈香港チャニーズソングトップ 10〉受賞式
	北京	マレーシアの自然災害を支援するチャリティーショー
	マレーシア	個人写真集の撮影

ツ選手は必ず組織の許可を得たうえで、広告などの商業活動を行わなければならない。(中略)現役スポーツ選手が個人の人気および名声で商業活動などに参与することはこの無形資産を十分に開発させ、祖国に報い、わが国のスポーツ事業にさらに貢献することを意味する」⁸⁾と書かれているように、現役スポーツ選手は「国家の資産」として扱われることが明記されている。ここで言及されている「商業活動」とは、国家の管理下において行われるものであり、選手の愛国心および国家への忠誠心を高めるもの、あるいは国家の権威を象徴するものでもある。

また、『追伸』によれば、選手の商業活動で得られた収入の配分は、「収入の70%以上は選手、監督およびその他の功労者の奨励金として配分する。それ以外は、該当する競技団体の発展資金として用いる」と定められている。

上記の規則に照らし合わせると、田が官庁の許可を得ずに多数の商業活動に携わり、得られた収入を自分で独占する行為は、明らかに規則違反である。また、国家体育総局は、田が個人のマネージャーを置くことに対して、2005年1月19日の『北京青年報』⁹⁾紙上で、「スポーツ選手はすべて国家で育てられたので、商業活動に携わる場合、各競技協会の管理に従い、協会内の関連機構または協会から権限を与えられた機構で行わなければならない。選手が自分だけの判断でそのような行動をとるのは許されない。水泳競技協会は田の個人マネージャーをもちろん認めない」と批判を加えた。

スポーツ選手は国家に育てられているため、国家は選手を管理し、統合する一方、選手は国家に帰属する。このような国家と選手の関係は、かつての中国競技スポーツ体制である「挙国体制」の時代において制定されており、現在の中国競技スポーツでは、プロ化が進んでいない多くの種目に存在する。以下では、中国におけるスポーツの「挙国体制」について整理を行う。

3 中国のスポーツ政策と「国家的英雄」

中国共産党がリードした社会主義国家として、中国は1949年に成立した。当時中国社会では、国家権力が、すべて重要な社会資源を独占し、社会全体の構造を構築するのである。黒田は、近代国民国家の形成について、「同一国家内において、様々な民族や階級が単一のナショナルアイデンティティをもっともリアルなものとしてもつ過程が国民国家形成の過程であるし、国家は、その形成に全力を傾ける」と指摘する[黒田, 1997: 328]。ところで、中国はナショナルアイデンティティを具現化するためにスポーツを重要な手段として用いてきた。国家はスポーツに対して「競技力を絶えず向上させ、オリンピックを勝ち取る」[梁ほか, 2006: 19]という方針を定め、中でもオリンピック大会を舞台として、国家が育てた中国人選手の活躍を全国民が共有し、その共通の記憶を持つものとしての「中国人」アイデンティティが形成されることを目指した。このように、ほかの国々と違い、中国は「挙国体制」というスポーツ政策を採用し、国家がアマチュア体育学校から、ナショナルチームまでのピラミッド型のシステムを構築し、エリート選手の育成に努めてきた。さらに、選手たちの心理的・経済的不安を除去するため、国家は政府予算の多くを選手に提供し、国際大会でメダルを獲得した選手に対して多額の報奨金も与えてきた。中国では、世界大会で常に高い成績をおさめる選手たちを「国家的英雄」と呼んでいる。彼らは選手としての成績が極めて優れ、自分の個性を抑え、かつ、人間として国家に忠実であり、国家に服従するという道徳的属性をもつ人々である。彼らは国家の社会的価値観の化身ともいえる理想的な「中国人」であった。

以上に述べてきたように、「改革開放」前の中国では、スポーツは完全に国家の政治的な文脈の中に取り込まれており、スポーツ選手も「国

家的英雄」として共産党のリードする社会主義国家の形成に重要な役割を果たした。

4 中国の「改革開放」とスポーツ市場の形成

1978年以降の中国では、鄧小平の指導の下、「改革開放」が国家全土で開始され、計画経済の下で閉鎖された中国社会に市場のメカニズムが導入されてきた。かつては国家が政治・経済のすべてをコントロールしていたが、改革開放以降、市場が社会における資源の配分の役割を担うようになり、その割合がますます拡大していった〔王, 2006: 85〕。このように、国家と社会の関係は従来の重複したものから徐々に分離し始めるようになり、中国社会に社会的にも経済的にも大きな変革が引き起こされてきた。

スポーツの世界においては、単に競技スポーツのレベルの向上を追求する政策から、スポーツの大衆化、産業化、商業化を同時に推進する方向に変化してきた。スポーツは従来の国家福祉から第3次産業として位置づけられ、ビジネスチャンスとして消費文化に組み込まれるようになった〔劉ほか, 2000: 250〕。また、1990年代に入ると、一部の市場的価値の高い競技種目においてプロリーグ戦が発足し、1994年のサッカーをはじめ、バスケットボールなどのメジャー種目で相次いでリーグ戦が開催されるようになった。各テレビ局はリーグ戦を中継し、スポーツの試合および選手は「見世物」のように各家庭に運ばれ、「見るスポーツ」が中国に定着し、人気を博すようになった〔谷, 2004: 371 - 372〕。

各プロスポーツ協会は、先進国のモデルを導入することでリーグの発展を推し進め、ここ十数年を経て、リーグの運営は国家の干渉を受けることが少なくなってきたため、スポーツ界における政治的色彩は薄くなっていった。また、プロ選手たちの自由度も比較的高くなり、彼ら

は競技以外の分野に進出し、経済的にも独立した自立性を持ち始めた。たとえば、NBAに進出した姚^{ヤオ}明^{ミン}は、4年間で約1,800万ドル（約20億円）の契約で2002年からNBAにデビューして以来、アリーナで活躍するだけでなく、「巨大な広告塔」としても世界で注目を浴びている。彼は独自で6人の専門家からなる国際的な事務所の「姚の隊」を持ち、中国以外にも、リーボック、ペプシコーラ、マクドナルドなどの海外の企業とスポンサー契約を結び、「中国スポーツの顔」と言われるほどまでにスポーツ選手としての商品価値を高めている。プロ化が進んだバスケットボール協会は姚明に対して開放的な環境を整え、姚が中国および海外のビジネス市場へ進出する際に重要な役割を果たした¹⁰⁾。また、サッカー選手においても、ナショナルチームのメンバーたちは、2001年サッカーワールドカップの決勝進出を決めた直後、多数のCMや祝賀セレモニーに携わり、彼らは国家体育総局からの許可を得ることなく、すべて個人の名義で企業と交渉し、契約を結んだ〔南方週末¹¹⁾, 2005.2.2〕。サッカーAリーグに所属する^{ハオハイドン}救海東は、現役中に「大連沿海グループ」を創設し、2001年経営難に陥った親クラブを援助するため、会社の名義で1年間800万元（約1億2,000万円）の契約で親チームの胸スポンサーとなった〔南方週末, 2003.10.23〕。これらの出来事は、中国においてサッカーのプロ化改革が進み、選手の自由度の向上およびビジネス市場への進出を何よりも物語っている。

さらに、メディアと結び付く選手の中には、あたかもスターのように振舞う人たちも数多くいた。2002年にサッカーナショナルチームの監督であるボラ・ミルティノビッチはチームメンバーの範志毅^{ファンチュイー}、楊晨^{ヤンチェン}などを率い、サッカー選手の生活を語るテレビドラマ『壮志雄心』に出演した〔北京青年報, 2002.6.13〕。これに対して国家体育総局からの抵抗はほとんど見られなかった。

このように、中国における改革開放の導入の

結果、一部のメジャースポーツは、「挙国体制」に束縛されることなく、そこに所属する選手たちも商業スポーツのコンテンツとして市場経済に取り込まれるようになった。国家のスポーツに対する直接的な干渉が減少し、スポーツ市場における経済の自主性を容認した結果、スポーツビジネスの空間が生まれるようになった。これはまさにスポーツ体制改革の成果として挙げられる。

また、90年代末からこれまでビジネス市場と一線を画したメジャースポーツ以外の各競技協会においても、国家の指示に従って独立採算制¹²⁾の動きが始まり、これによって、選手は国家の許可を得て規則の限度の下、スポーツ事業および競技団体の運営資金に貢献するという名目であれば、商業活動への進出が許可されるようになった。前述した『通知』および『追伸』は、この背景の中で公布された。

5 田亮にみる「国家的英雄」像の変容

スポーツの選手がビジネスの世界に進出するにつれ、メディアによって彼らにスターのイメージが付与されるようになった。鈴木は、このような状況を「スポーツが見るスポーツとしてファッション化された現代においては、もう古典的な意味合いでのヒーローとはまったく異なったヒーローが大量生産され始めてきたわけです。つまり、メディアへの露出度が高いほどヒーロー（スター）に近づく道ができてしまいました。（中略）人間味を持たせ、ドラマがあり、というところが、まさにスポーツヒーローなのかもしれません」と指摘している〔鈴木、2001：54〕。

田がビジネス市場に進出するにともない、メディアは人々の注意を惹きつけるように彼のスポーツ選手以外の情報を多く報じるようになり、彼のそれまで持っていたイメージを別様に作り変えた。たとえば、2004年11月15日の『北京青年週刊』¹³⁾は、田のチームメート

である郭晶晶^{ゴージンジン}との関係について、「田亮と郭晶晶が初めて語った、私たちは仲むつまじいカップルです」という見出しを雑誌の表紙に掲載し、二人の関係をチームメートではなく恋人として伝えていた。さらに、以下に示すように、二人の名前に対して、新聞メディアは「亮晶晶」¹⁴⁾という言葉を作り、これが非常に流行した。

2000年シドニーオリンピックで五枚の金メダルを獲得したナショナル高飛び込みチームは香港で行われた祝賀会に参加した。その直後、香港の新聞に興味深い見出しが現れてきた——「亮晶晶」。香港のジャーナリストたちはプロの直感で田亮選手と郭晶晶選手が持っているスターとしての大きな潜在力を感じた。（中略）換言すれば、「亮晶晶」の間に存在している感情は「友情」であるか、それとも「愛情」であるか。（中略）もし「友情」であれば、それはかなり深いと考えられるが、もし「愛情」であれば、それは非常に浅いだろう。〔北京青年報、2005.1.24〕

この報道では「スターとしての大きな潜在力」、「友情」、「愛情」などの言葉で二人の人間味およびチームメート以上の関係が強調され、読者の関心を惹きつけようとしていた。

また、「亮晶晶」に関する報道について、次のような記事も掲載された。

googleで「亮晶晶」というフレーズを検索してみれば、754,000件の結果が表示される。あるポータルサイトには「亮晶晶」の動きを追跡する専門ページまで開いてある。さらに、最近成都で行われた第10回〈全国運動会〉¹⁵⁾の高飛び込み予選試合さえ『「亮晶晶」の蓉城¹⁶⁾相会』とメディアに大げさに報道された。（中略）メディアは「亮晶晶」に持っている興味はすでに高飛び込みそのものをはるかに超えている。「亮晶晶」というもともと言葉は若さと光にあふれるというイメージを示すが、今ではゴ

シップネタをあらわすフレーズになっている。
[北京日報¹⁷⁾, 2005.9.28]

この記事は、メディアが田と郭の関係をセンセーショナルに報道する現状を批判するものである。メディアはかつての「国家的英雄」とまったく違う意味で、田および郭を有名人もしくはスターのように取り上げている。これ以外にも、田の芸能界進出に関する情報もメディアが多く取り上げている。

田の香港大手プロダクション EEG との契約の細部について、『北京青年報』は「除名事件」の起こる直前の 2005 年 1 月 5 日に、「(芸能活動を行う場合) 常に高飛び込みが優先されるが、(中略) 今後の 3 年のうち、3 本の海外広告に出演すること、そして、彼が主演者となる 3 本の映画を撮影することを EEG は保証した」と報じている。

また、2001 年になると、田の人気はさらに高まり、彼はメディアから「中国テレビスポーツ大賞」の「年度最優秀男性アスリート賞」を受賞した。当時の状況について、田は自伝で次のように語る。

同年度(2001 年)にぼくは〈中国テレビスポーツ大賞〉の〈年度最優秀男性アスリート賞〉も受賞した。授賞式でぼくは次のように評価された。「田亮選手は新しい高飛び込みのプリンスであり、中国男子高飛び込みを率いる人物でもある。未熟者であった 1996 年アトランタオリンピックから、無敵となる 2002 年セビリアワールドカップまで、彼は 10 メートルの高飛び込み台とプールの間で人々を感動させる数多くの伝説を残した。完璧なパフォーマンスはすべての人を驚かせ、明るい笑顔はすべての人を引き付ける。彼は中国高飛び込みの輝かしい時代を開いた。[田, 2006: 109]

「未熟者」から「無敵」までの「人々を感動させる伝説」は、田の成功に辿りつくまでの努力

を賞賛している。また、「完璧なパフォーマンス」は彼の才能、「明るい笑顔」は彼の人間的魅力を称えている。最後に、「高飛び込みの輝かしい時代を開いた」も加えられている。メディアは現在の中国社会において認められている田の資質に光を当て、視聴者の感動を喚起することで田の人間としての魅力を伝えようとする。

したがって、国家は商業スポーツにおいて生まれた「スポーツ選手の商業活動への携わり」という要素だけを取り出し、「挙国体制」のメカニズムに取り入れてきた。その結果、国家は、挙国体制の管理下にあるスポーツ選手をビジネス市場に進出させ、各競技協会の運営収入を増やすという経済的なメリットを追い求めるが、それと同時に、政治的な側面では「挙国体制」の象徴となるスポーツ選手の「国家的英雄」像のゆらぎは許容しない。

しかし、上述してきたような「商業活動」が「挙国体制」の枠組みにはめ込まれる過程で、スポーツ選手のイメージは市場の要求に沿う形で新たに創り上げられ、かつての「国家的英雄」像は崩れ、「挙国体制」と「商業活動」との間に軋轢が生じてきている。田の除名事件は、このような現代中国における社会背景の下で発生した。

6 「除名事件」に関する社会的評価

田の「除名事件」は中国社会に大きな波紋を呼び、各新聞メディアもこの事件を大々的に報道した。本章では、除名される 1 週間前の 1 月 19 日から、1 週間後の 2 月 2 日までの期間における 2 つの新聞¹⁸⁾ を取り上げ、この出来事がどのように報道されていたのかを比較・分析する。

まず、中国で発行部数が最も多く、中国共産党の唯一の機関紙である『人民日報』では、「除名事件」が 3 回¹⁹⁾ にわたって報道された。田の除名に関して『人民日報』は、国家体育总局を支持する立場から彼を非難する論調であっ

た。2005年1月24日の『人民日報』では、「(前略) 現役のナショナル選手でありながら、多数の商業活動にひそかに携わり、常軌を逸する……」という記事が掲載されている。国家体育総局による田批判の中心は、国家の許可を得ていないにもかかわらず、「多数の商業活動」に「ひそかに」携わるという点にあった。ただし、今回のように選手が休暇中に商業活動に携わる場合には、どのように対処すべきかを明文化した規則は現在も存在していない。国家体育総局は規則の不備をさておいて、「常軌を逸する」という理由で田を除名している。これは『人民日報』および国家が期待する「国家的英雄」像であり、経済活動よりも国家への忠誠を優先すべきだというかつての考え方が表明されたものだと考えられる。さらに、次のような記事も掲載された。

(前略) 競技でよい成績を修めるつもりがないうえに、スポーツ選手の身分を借りて自分を売り込もうとするのは、まったく不遜な考え方だ……。[人民日報, 2005.1.24]

(前略) ナショナルチームの一員であるということは最高の肩書きである。田はこのことをはっきり承知し、ナショナルチーム復帰への願望を繰り返し表明しているものの、彼の本当の動機は疑わしい……。[人民日報, 2005.1.27]

この二本の記事からは、田がスポーツ選手の肩書きを借りて商業活動をするのは自分を売り込もうという考え方をもっているからであり、また、彼がナショナルチーム復帰への希望を繰り返し表明する理由は、ナショナルチームの一員であることが自らの商業活動を成功させるうえで、最高の肩書きになることを本人がはっきり理解しているからだということを読み取ることができる。「まったく不遜な考え方」、「本当の動機は疑わしい」という言葉で田を悪い見本として読者に印象づけており、『人民日報』の

田に対する評価は、これまでの「国家的英雄」とまったく正反対となっている。田の行った一連の行動は国家的英雄の「裏切り者」であるというのが、『人民日報』の立場である。

一方、北京でもっとも発行部数が多い非政府系新聞(都市報)であり、比較的に市民の声を代表している新聞とされる『北京晩報』は、田の商業活動の携わりおよび「除名事件」について、4回²⁰⁾にわたって報道していた。報道では、田を非難する論調は見られなかった。

田亮選手は中国ナショナルチームにビジネスの「黄金時代」を開いた。(中略) 個人としての価値を重要視する当代の優秀なスポーツ選手をどのように管理し、指導すべきか。これは確実に新しい情勢におけるスポーツ管理に新たな課題を提起したのである。[北京晩報, 2005.1.27]

この記事に見られるように、『北京晩報』は「個人としての価値を重要視する当代の優秀なスポーツ選手」という言葉で田を評価している。また、急速な社会変化が引き起こした現在の状況に対して、管理者はいかに対応すべきか、という今後の課題も提起している。

また、田がナショナルチームから除名された直後、上海でCMの撮影に参加したという情報がメディアによって報道された。これに対して、次のような田を支持する記事が掲載された。

田の上海へCMを撮影に行くことについて、田の代わりに陝西省体育局は事実を明らかにした。「これは陝西省水泳センターおよび陝西省体育局が慎重に考えた上で、決めたのだ。田はナショナルチームを除名されたが、私たちは信用を守らないといけない。(筆者注: 企業との契約は去年10月にすでに結んだものなので) 田は約束を果たすべき」と陝西省体育局局長李明華が言った。[北京晩報, 2005.2.2]

国家体育総局は、田をナショナルチームから除名した後、彼を地方の陝西省チームに帰らせた。上海でCMの撮影を受けたことについて、陝西省体育局局長が田を支持する考えを表明していることが報道されている。

その後、『人民日報』は田を報道しなくなるが、『北京晩報』は継続して報道を続けている。次の記事は、「除名事件」が発生してからおよそ1年後、2006年1月4日の『北京晩報』に掲載されたものである。

「挙国体制」において、国家は選手の養成に関わるすべての資源を負担する。この点から考えれば、現行の分配制度は合理的である。だが、現在の環境の中で、競技成績も良く、他の分野で活躍する能力も持っている田亮のような選手に対して、従来の利益分配制度を用い、彼らを束縛したら、問題が起こるかもしれない。スポーツが発展すると、スポーツ選手が市場に進出することは避けられない問題である。田亮選手はまさにこの微妙なところに直面したのである。これによって、次の問題が国家体育総局に提起された。つまり、いかに時代とともに進み、新たな発展に順応するように体制を改革するかということである。[北京晩報, 2006.1.4]

この記事からは、まず、「競技成績もよく、他の分野で活躍する能力も持っている」という書き方で、事件の直後と同じように『北京晩報』は田を肯定的に評価していることがわかる。また、この事件のもつ社会的意義および新しい時代にあたって、中国競技スポーツの抱えている問題についても分析を加え、体制改革を進める提案もされている。

以上のように、かつて田を「国家的英雄」として持ち上げた『人民日報』は、「除名事件」を境に田に対する評価がまったく正反対となり、国家の期待に反する田を明らかに批判している。一方、『北京晩報』は田が国家から見放された後でも、彼を支持する立場で事件を報道

していた。また、『北京晩報』の報道では、現在および今後に対する「除名事件」の意義についても強調されていた。国家および国家体育総局を代弁する『人民日報』と世論の声を反映する『北京晩報』を比較すると、田に対する対応が異なっていたといえるだろう。

7 結論—中国スポーツ改革における「除名事件」の意義

橋本は、スポーツにおけるヒーロー像について、「ヒーローはそれぞれの時代や社会を象徴する価値を体現し、大衆の想い描くファンタジーを代理的に現実化している。人々のアイデンティティの核を形成しているのはファンタジーや願望である。スポーツに纏わる様々なナラティブ（物語）や神話はファンタジーや願望を必要とし、スポーツ選手はそれをかなえる時、ヒーローとして崇拝され、期待を裏切った時、しばしばスケープゴートとして貶められる」と指摘している[橋本, 2002: 267]。ここに如実に示されているように、大衆の持っているファンタジーや願望をかなえるということが、それぞれの時代や社会におけるスポーツヒーローになるための条件である。

図2は、中国におけるスポーツヒーロー像の形成を、改革開放が導入される以前およびその以降に分けて図示したものである。最後にこの図を用いて、「除名事件」の意義を論じる。

図2における左側の《A領域》は、改革開放が導入される以前の「挙国体制」の中国をあらわしている。「挙国体制」下では、「国家」はすべての資源を統制し、田亮のようなオリンピック金メダリストたちを育成した。「国家」は人々（＝人民）のファンタジーや願望を統合するために、メディア（図中「メディア1」）を通して彼らを「国家的英雄」像として形作り、「国家」がリードする社会主義の発展を推し進めてきた。

しかし、「改革開放」以降、スポーツ市場が「挙

図2 中国におけるスポーツヒーロー像の形成

国体制」の内部で生まれ、スポーツ環境が大きく変容するようになった（図中右側《B領域》）。このような状況において、スポーツ「市場」では人々（＝大衆）は自分のファンタジーや願望にしたがって、時代にふさわしいヒーロー、すなわち「大衆的スター」を求めることが可能となってきた。「国家的英雄」としての田は国家から除名された後、『人民日報』（「メディア1」に相当する）は田を批判的に取り上げたが、大衆の声を反映する『北京晩報』（「メディア2」に相当する）は彼を支持する立場で事件を報道し、彼を人々のファンタジーや願望を満たす「大衆的スター」のように扱った。

中国は2008年北京オリンピック大会の開催国としての権利を手にした。それはこれまでの自国における高度経済成長の成果を、スポーツを通じて世界に誇示する最も重要な舞台であると考えられる。国家は、オリンピックにおいて優れた成績を収めるために、重点種目に関わるトップレベルの選手たちを集結させて鍛え上げるとともに、オリンピックに参加するスポーツ選手に「国家的英雄」像への同一化を求めることが想定される。また、田の事例で取り上げてきたように、彼は国家の設けた規則に従わず、メジャースポーツ選手のように自らの意思で商業活動に進出し、そこで得られた利益を国家に還元する行動も取らなかった。田はすでにメデ

ィアによって従来の「国家的英雄」像から「大衆的スター」に作り変えられていた。彼はもはや国家の期待する「国家的英雄」像からはかけ離れたものとなってしまったのである。そのため、「国家」は「国家的英雄」像から逸脱した田を、それまでの中国における「挙国体制」を挑発するものと判断し、彼をナショナルチームから排除した。

ところが、スポーツ市場が拡大し、「国家」の統制が漸次的に衰退しつつある現状では、今後国家が「国家的英雄」であるスポーツ選手に統制をかけようとしても、彼らの「市場」への流出は止まらなくなるという事態が起きうる。このような変化に直面した国家は統制を強化するため、かつての「挙国体制」下の「国家的英雄」像と、スポーツ市場が生み出した「大衆的スター」を融合させた、一種の妥協の産物としての、いわば「国家的スター」を形成するシステムを構築しなければならない可能性がある。（図中③「国家的スター」を示す）。事実、2006年8月1日の新聞記事では、2008年のオリンピックの高飛び込みの予選に向けて、高飛び込みチームの監督・周継紅^{チョウチーフォン}が田の参加を認める発言をしている。

私たちは来年にオリンピックの予選を行う予定である。われわれは公平、公正、公開の原則に基づいて選手を選び出す。すばらしい競技レベルを発揮すれば、田を含むすべての選手はみんな勝利を獲得するチャンスがある。[搜狐(SOHU)スポーツニュース²¹⁾, 2006.8.1]

これはまさに、ナショナルチームから除名された田にチームに復帰するチャンスを提供する出来事であり、また、今後中国社会において妥協の産物としての「国家的スター」が登場する兆しだとも言える²²⁾。

本稿で取り上げた「除名事件」は中国スポー

ツ体制改革の軌轢を示すものであるが、それは同時にスポーツの分野を越え、過渡期にある中国社会全体の軌轢を反映した事例であったと考えられる。本稿は、この問題にスポーツという観点から光を当てたものである。

(Endnotes)

- 1) 「業余」とはアマチュアの意味であり、「重慶市青少年第一業余体校」は重慶市の青少年向けのアマチュア体育学校である。
- 2) 本写真は『北京青年報』[2005.9.29]より引用(許可済み)。
- 3) FINA 国際水泳連盟のサイト: 「飛び込み選手の略歴－田亮」(http://www.fina.org/bios/archives/bio_Liang.html, 2006.8.13 確認)、「HistoFINA Volume VII/ Tome VII」(http://www.fina.org/pdf%20files/histoFina/HistoFINA_VII.pdf, 2006.8.13 確認) および中国水泳協会のサイト: 「飛び込み空中英雄－田亮」(<http://swimming.sport.org.cn/ts>, 2006.8.13 確認) から筆者が作成した。
- 4) この段落は『北京日報』および『北京晩報』の記事[2005.1.27]を参考し、取りまとめた。
- 5) 田亮に関する新聞記事、ポータルサイトである搜狐(SOHU)のスポーツニュース(<http://sports.sohu.com>)により筆者が作成した。
- 6) 国家体育総局のサイト: 「『広告等の商業活動に従事する現役スポーツ選手の管理強化に関する通知追伸』」(<http://www.sport.org.cn/ziliaochaxun/chanye/2004-11-23/399709.html>, 2006.8.15 確認) により訳文を作成した。
- 7) 国家体育総局のサイト: 「『広告等の商業活動に従事する現役スポーツ選手の管理強化に関する通知』」(<http://www.sport.org.cn/ziliaochaxun/chanye/2004-11-23/399720.html>, 2006.8.15 確認) により訳文を作成した。
- 8) 本稿における中国語文献の日本語訳はすべて筆者によるものである。
- 9) (本稿における新聞資料は、『中国新聞年鑑』を用いている)『北京青年報』は1949年に創刊され、共青団北京市委が主催する機関紙であり、2003年の年間総合発行部数は22,104万部である。中国新聞改革に従って、1992年から「企業型」の経営を導入し、2001年に「北京青年報グループ」が創設される。機関紙、市民紙、週刊誌およびウェブサイトをも有する総合的なメディアグループとなっている。
- 10) 姚明については、『毎日新聞』[2004.7.22]および『新営銷』[2004.10]の記事を参考にした。
- 11) 『南方週末』は「南方日報報業グループ」(1998年に創設)に所属し、全国の主な都市に発行する週刊新聞である。
- 12) 独立採算制とは、従来のようにすべて国家予算で各種目の競技団体を賄うのではなく、各競技団体が企業スポンサーなどの方法で、独自に運営資金を稼ぎ出し、自立を達成するという運営方式である。
- 13) 『北京青年週刊』は「北京青年報業グループ」に属し、北京で販売される普通市民向けの人気週刊誌である。
- 14) 「亮晶晶」とは田亮の名前の「亮」と、チームメートである女性の郭晶晶の名前の「晶晶」から組み合った言葉で、きらきらして輝くという意味である。
- 15) 中国運動会: 中国における最大の競技スポーツイベントである。第1回の大会は1959年に開催された。1975年の第3回大会以後、4年毎に開催されるようになった。
- 16) 蓉城: 成都という都市の別名であり、四川省の省都でもある。
- 17) 『北京日報』は1952年に創刊し、北京で販売する北京市政府の機関紙であり、「北京日報報業グループ」に所属している。2004年の年間発行部数は10,950万部である。
- 18) この部分に取り上げた二つの新聞は『人民日報』および『北京晩報』である。『人民日報』は1948年に創刊した中国共産党の機

関紙であり、全国で発行する唯一の機関紙でもある。2004年の年間総合発行部数は68,033万部である。一方、『北京晩報』は1958年に創刊し、北京で発行する代表的な市民紙であり、「北京日報報業グループ」に所属している。2004年の年間総合発行部数は32,850万部である。『人民日報』は共産党の「喉元」と位置づけられ、主として党の支持に従って「世論誘導」の役割を果たすため、その報道が党に厳しく指導・統制されている。これに対して、市民紙としての『北京晩報』は主として情報伝達および娯楽などの面において機関紙の機能を補強するため、その内容は市民の立場に応じ、情報サービスなどを行う余地が大きいということである〔唐, 2001:90〕。

- 19) 1月19日から2月2日までの期間中、『人民日報』は1月20日、1月24日および1月27日に3回をわたって「除名事件」を報道した。
- 20) 1月19日から2月2日までの期間中、『北京晩報』は1月20日、1月27日、1月29日および2月2日に4回にわたって「除名事件」を報道した。
- 21) 搜狐のスポーツニュース：(<http://sports.sohu.com/20060801/n244551467.shtml>, 2006.8.13 確認)により訳文を作成した。搜狐(SOHU)は中国三大ポータルサイトの一つであり(他の二つは新浪(SINA)および網易(NETEase)、1988年に創立された。2008年北京オリンピックのオフィシャルスポンサーとしても注目されている。
- 22) さらに、中国におけるスポーツ改革今後の行方を展望してみると、瀬戸際に立つ国家は、「市場」と衝突するそれまでの「国家(中国共産党)」を脱却し、より高い次元から「中国(中国共産党)」として統合することを目指し、図2における「メディア1」と「メディア2」の双方の特性を併せ持つ新たなメディア報道(いわば「メディア3」のような

もの)を通して「国家的スター」像を強化し、「大衆」を支配する可能性があると考えられる。

文献

- (中国人の名前および中国語の文献は中国語の発音にしている)
- 谷世権編著, 2004, 『中国体育史』, 北京体育大学出版社。
- 橋本純一編, 2002, 『現代メディアスポーツ論』, 世界思想社。
- 黒田勇, 1997, 「ヨーロッパにおける文化的アイデンティティとマス・メディア(1)」, 大阪経済大学編『大阪経大論集』47(6), 323-344。
- 梁曉龍・鮑明暁・張林, 2006, 『拳国体制』, 人民体育出版社。
- 劉忠・王芬・鄭基松, 2000, 『市場經濟与体育』, 北京体育大学出版社。
- 鈴木守・山本理人編著, 『スポーツ/メディア/ジェンダー』, 2001, 道和書院。
- 唐亮, 2001, 『変貌する中国政治—漸進路線と民主化』, 東京大学出版会。
- 田亮, 2006, 『最亮の十米』, 作家出版社。
- 王威海(長田洋司訳), 2006, 「中国における社会構造の変遷と社会流動—改革開放以降を中心として—」, 王元編著『中国の文化と近代化』, 白帝社, 69-106。
- 中国社会科学院新聞研究所, 1990, 『中国新聞年鑑』, 中国社会科学出版社。
- 中国新聞年鑑社, 2005, 『中国新聞年鑑』, 中国新聞年鑑社。

参考 URL

- <http://www.Fina.org> FINA 国際水泳連盟
- <http://www.sport.org.cn> 国家体育総局
- <http://sports.sohu.com> 搜狐(SOHU)のスポーツニュース
- <http://swimming.sport.org.cn> 中国水泳協会